

令和4年度

第1回池田市公共事業評価委員会

会 議 録

日	時	令和4年10月28日(金)
		10時00分～11時00分
会	場	池田市役所3階 議会会議室

令和4年度 第1回池田市公共事業評価委員会議題

附議事項

第1号 都市再生整備計画事業フォローアップについて

第2号 阪急池田駅周辺地区（2期）都市再生整備計画事業について

以上

議 事 録

1. 会議の名称 令和4年度第1回池田市公共事業評価委員会
2. 開催日時 令和4年10月28日（金）
10時00分～11時00分
3. 開催場所 池田市役所3階議会会議室
池田市城南1丁目1番1号
4. 出席者 別紙のとおり
5. 議 題 附議事項
第1号 都市再生整備計画事業フォローアップについて
第2号 阪急池田駅周辺地区（2期）都市再生整備計画事業について
6. 議事経過 別紙のとおり
7. 公開・非公開の別 公 開
※非公開の理由
8. 傍聴者数 0 名
9. 問合せ先 池田市まちづくり推進部都市政策課
(072) 752-1111 内線364
(072) 754-6262 (ダイヤルイン)
mail : t-seisaku@city.ikeda.osaka.jp

令和4年度第1回池田市公共事業評価委員会 議事録

1. 開 会

<資料確認等説明>

委員長

委員の皆様、本日は公私ともお忙しい中、ご出席誠にありがとうございます。

本日の委員会は、池田市公共事業評価委員会の会議の公開に関する要領第2条に基づき、会議を公開とさせていただいておりますが、本日は傍聴を希望される方はおられないようです。

2. 委員の出欠報告

委員長

それでは、会議に入る前に、本日の出欠状況の報告を事務局よりお願いいたします。

事務局

それでは、本日の出欠状況をご報告申し上げます。本日は、委員5名中5名の方が出席しておられます。従いまして、本日の委員会は池田市公共事業評価委員会規則第6条により、成立いたしますことをご報告申し上げます。

3. 第1号議案

委員長

ありがとうございました。これより審議に入ります。

それでは第1号議案「池田市都市再生整備計画フォローアップについて」事務局より説明をお願いします。

事務局

「池田市都市再生整備計画フォローアップについて」ご説明させていただきます。本日は事業概要を説明させていただいた後、事後評価時に見込みや測定できていなかった指標の達成状況についてご説明させていただき、最後に事後評価で示した「今後のまちづくり方策」の進捗状況についてご説明させていただきます。

初めに、阪急池田駅周辺地区についてご説明させていただきます。まず、阪急池田駅周辺地区の事業概要ですが、中心市街地の賑わいの再生、歴史的資源を活用した回遊性の向上、安全・快適な歩行者空間ネットワークの整備・充実を目標とし、平成30年～令和3年にかけて満寿美公園整備・池田地域交流センター整備・栄本町ポケットパーク整備・府道箕面池田線緑化施設再整備を行いました。目標を定量化する指標

として、こちらの5つ挙げております。事後評価時に見込みや測定できていなかった「指標1 阪急池田駅1日平均乗降客数」「指標2 観光施設の利用者数」「指標4 (仮称)池田地域交流センター利用者数」の3項目について、フォローアップしましたのでご説明いたします。

「指標1 阪急池田駅1日平均乗降客数」について、目標値は乗客数15,000人、降客数14,300人、事後評価時の見込み値は乗客数11,000人、降客数10,500人に対し、フォローアップ確定値は乗客数9,674人、降客数9,237人と目標値、評価値よりも少ない結果となりました。減少した要因として新型コロナウイルスの影響が大きいと考えられます。今後は公共交通だけでなく、自転車や次世代モビリティなどを利用しやすい環境整備が必要だと考えております。

「指標2 観光施設の利用者数」について、目標値は1,700,000人、事後評価時の見込み値が595,000人に対し、フォローアップ確定値は669,695人と目標達成には至りませんでした。事後評価時の見込み値や前年度より増加していることから改善傾向にあると考えております。

「指標4 (仮称)池田地域交流センター利用者数」について、目標値は55,000人に対し、フォローアップ見込み値は27,000人と目標達成には至らない見込みです。指標1と同様に新型コロナウイルスの影響や移転の周知不足が大幅に減少した要因と考えられます。今後は周知徹底し、施設管理者と連携を図りながら利用者数が増えるよう取り組んでいきたいと考えております。

最後に今後のまちづくり方策の進捗状況ですが、事後評価時に5つ方策を挙げております。グリーンインフラ事業の推進については昨年度グリーンインフラ推進計画を策定し、事業を進めているところです。その他の方策については、官民連携まちなか再生推進事業による社会実験イベントの開催や次期都市再生整備計画の検討を行いました。次期都市再生整備計画の具体的な内容については、第2号議案にて説明させていただきます。

次に、阪急石橋阪大前駅周辺地区について説明させていただきます。

まず、阪急石橋阪大前駅周辺地区の事業概要ですが子育て・教育関連施設等の充実、石橋阪大前駅周辺の魅力向上を図り、にぎわい創出を目標とし、平成30年～令和3年にかけて石橋阪大前駅周辺路地空間美装化、石橋拠点施設・石橋図書館・ダイバーシティセンターの整備を行いました。目標を定量化する指標として、こちらの5つを挙げております。事後評価時に見込みや測定できていなかった「指標1 阪急石橋阪大前駅1日平均乗降客数」「指標2 石橋拠点施設会館利用者数」「指標4 石橋図書館利用者数」の3項目について、フォローアップしましたのでご説明いたします。

「指標1 阪急石橋阪大前駅1日平均乗降客数」について、目標値は乗客数14,000人、降客数13,500人、事後評価時の見込み値は乗客数10,500人、降客数10,200人に対し、フォローアップ確定値は乗客数9,149人、降客数8,839人と目標値、評価値よりも少ない結果となりました。減少した要因として新型コロナウイルスの影響が大きいと考えられます。今後は阪急池田駅周辺地区と同様に公共交通だけでなく、自転車や次世代モビリティなどを利用しやすい環境整備が必要だと考えております。

「指標2 石橋拠点施設会館利用者数」について、目標値は18,000人、事後フォローアップ見込み値は21,000人と目標を達成する見込みとなっております。石橋図書館との相互利用の効果が現れていると考えます。

「指標4 石橋図書館利用者数」について、目標値は140,000人、事後フォローアップ見込み値は150,000人と目標を達成する見込みとなっております。こちらもダイバーシティや子育て支援施設との相互利用の効果が現れていると考えます。

今後のまちづくり方策の進捗状況ですが、事後評価時に4つ方策を挙げております。まだ、具体的な事業や計画は進んでいませんが、10月13日に石橋阪大前駅周辺まちづくり協議会を設立しましたので、協議会と連携しながら事業や計画を検討していきます。

以上で「第1号議案 池田市都市再生整備計画事業フォローアップについて」説明を終わります。

委員長

ご説明ありがとうございました。

委員の皆さま、ご意見、ご質問がございましたら、よろしくお願ひします。阪急池田駅周辺地区と阪急石橋阪大前駅周辺地区それぞれのフォローアップの報告と今後のまちづくり方策の進捗状況についてお示しいただいたかと思ひます。いかがでしょうか。

委員

阪急池田駅周辺地区について、議案書3ページの指標2の事後評価値が595,000という数字と今日配っていただいた様式2-1の評価値が682,000という数字との違いというのはどのようなプロセスでこの評価値にたどり着いたのか教えていただきたいです。

委員長

ありがとうございます。様式2-1と様式4-1それぞれの数値がどのようなかたちで換算されているのかというご質問だったと思います。

事務局

議案書の評価値595,000というのは誤りです。

委員長

682,000の様式2の方が推計値だったということでしょうか。確定値が議案書の中の数値ということですが、他のデータもそのようにみたらいいということでしょうか。

今説明を受けているフォローアップの確定値の数値が最終数値と伺っていた気がしますが。

事務局

フォローアップの確定値が実際の数値です。推計値が転記ミスしておりまして、682,000と見込んでいたところです。

委員長

今日はフォローアップの確定値というところを確認いただきながらご意見いただきたいということですのでよろしいですね。他にご意見いかがでしょうか。

委員

事前の説明でも伺っていましたが、フォローアップ報告書ですと3ページのところでお示しいただいたフォローアップ確定値は指標1・2・4の3つだと理解していますが、指標3と一番下の様式4-2に確定値はないが総合所見のところにコメントがあり、これをお伺いしていますと国交省の様式がそうなっていて、他のところにも書くようになっていた話でしたが、少し違和感はあるなという気がしています。何も値を今回確定していないのに所見だけ入れるというのはどういう意味なのかなと疑問に思うところがあり、委員の皆様のご意見をお伺いできればお伺いしてみたいと思っております。極端に言うとなくてもいいのではないかと思っております。そこ入れる意味があるのかなと疑問に思っているところです。どうしてもいるということでしたら一番下の様式4-2の総合所見は、少し気になっていまして、これは今回初めて入れたのでしょうか。前回もこのとおりに入っていたのでしょうか。

事務局

前回の事後評価の様式2-1の(3)その他数値指標に書いており、これをこのまま転記させていただいております。

委員長

ご意見ありがとうございます。3ページの様式4-1の指標についてということで、指標3だけ記述の仕方が違うということですが、事前説明で伺ったときにこれは事後評価時に確定になっており、フォローアップによる確定をしなくてよいという位置づけで指標3は評価されているということで伺っていたので、あまり違和感なく他の指標と記述は違うと受け取っていました。

委員

ただ総合所見だけ書かないといけないということが、よくわからないと思っただけです。いずれにしても転記されているだけです。

委員長

事務局から何か補足ありましたらお願いします。

事務局

機会がありましたら、大阪府に問い合わせをしてみようと思います。様式の方に米印ですべての指標について記入と書かれていましたので記述しております。

委員長

そのあたりを確認いただければと思います。他にはよろしいでしょうか。

私の方から確認ですが、3ページの様式4-1の指標4池田地域交流センターの利用者数のフォローアップ確定値につきまして、利用者数が見込めなかったというところで、周知徹底を図る必要があるというコメントが所見の方にありますが、これは施設更新をしたけれども、なかなかコロナの影響で市民の方々に施設がかわった等、そのへんの周知がなかなか行き届いていなかったという理解でよろしいでしょうか。

事務局

そうですね。もともとの使い方として、NPO 団体等が自分たちの活動をする場所としてコミュニティセンターを使われていましたが、そういった活動が今少なくなっているところもあります。NPO 団体や地域の活動をされている方にこちらの施設をご案内させていただき、どんどん使っていただこうと思っております。

委員長

周知を徹底していただくようによろしく申し上げます。他にご意見いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、議案第1号については以上とさせていただきます。

4. 議案第2号 都市再生整備計画事業事後評価について

委員長

続きまして、議案第2号『阪急池田駅周辺地区（2期）都市再生整備計画事業について』について、事務局より議案の説明よろしく申し上げます。

事務局

阪急池田駅周辺地区（2期）都市再生整備計画事業について、ご説明いたします。

議案書9ページをご確認ください。本事業については、現在、計画策定に向け、国土交通省と協議を進めているところであり、こちらは協議資料の地区概要シートとなります。

事業概要としては、阪急池田駅の駅前空間の再整備や遊休化した公共施設用地の有効活用と各拠点のネットワーク強化等について、官民連携で検討しながら、居心地の良い滞在空間整備や新たな交流スペースを創出することで、市民活動や民間事業を誘発・促進し、賑わいと交流が生まれる都市拠点の形成をめざすとし、令和5年度から令和9年度までの事業計画を検討しております。

主な事業につきましては、議案書10ページから13ページに掲載しております。

整備内容については、構想段階のものであり、事業を進めていく中で必要に応じて計画変更をしていくことも想定していますが、阪急池田駅南の駅前空間である、せせらぎモールの再整備を進めていくことと、コミュニティセンター跡地や栄本町ポケットパークが集積するエリアの利活用に向け、市民ワークショップ等を行い利活用についての検討や社会実験を進めながら、拠点整備を進めていくことを計画しております。

栄本町ポケットパークについては現状のポケットパークの拡張工事、コミュニティセンター跡地については、観光交流や子育て支援施設、テレワーク拠点とあわせ、官民連携のまちづくりを推進していくための拠点整備等を検討しているところです。

議案書14ページからは整備計画案を掲載させていただいております。

最後に、目標を定量化する指標について説明させていただきます。議案書16ページをご確認ください。

指標は、「居住誘導区域の人口密度」「歩行者交通量」「広場での滞在人数」「官民連携イベントの実施回数」としております。

「居住誘導区域の人口密度」については、駅周辺エリアにおけるR4年4月の町丁目別人口をもとに算定しました。本市においては総人口は過去5年間を見ても横ばいであり、駅周辺エリアにおいては微増しておりますが、今後人口減少が想定されるため、目標値としては現状維持としております。

「歩行者交通量」と「広場の滞在人数」については、国土交通省が令和2年3月に示された「まちなかの居心地の良さを測る指標（案）」を活用し、計測しております。

交通量については、駅前広場周辺と、さくら通り、商店街、本町通りの歩行者交通量を計測し、目標値は1割増としています。

滞在人数については、せせらぎモール、てるてる広場、栄本町ポケットパークで1時間あたり3分以上滞在していた人の数を計測し、目標値については2割増としています。

イベントの実施回数については、今年6月に開催した「おさんぽマルシェ」のような官民連携イベントを継続して行っていき、年2回以上の開催を目標としました。

以上で「第2号議案 阪急池田駅周辺地区(2期)都市再生整備計画事業について」説明を終わります。

委員長

ご説明ありがとうございました。

委員の皆さま、ご意見、ご質問がございましたら、よろしく申し上げます。

最後にご説明いただきました、目標指標の設定につきましては、今後の事業評価にも大きく影響すると思っておりますので、指標の項目や目標値について、ご意見やご提案などもありましたら、あわせてよろしく申し上げます。

委員

指標の話ですが、広場での滞在について、もう少し質的な評価にできないかと思っています。国交省の居心地の良さを測る指標もいいと思いますが、調査のやり方として調査員がどう居心地が良いか、色々な箇所を同時にその調査員が調査をして1地点での質の違いを測るにはいい指標だと思いますが、同じ池田の場所を5年後、測るとなると本人の評価の視点もぶれるような気がするので、難しいと思っていました。一つの解決案としては、今の利用者にそのことを聞いて、さらに5年後にそこにおられる利用者にそのことを聞くということは一つあると思います。ただし、利用者5人、10人ではバイアスが大きいので、少し量的にたくさん票数を取って、例えば100票ぐらい取れば、その時に使っている一般の感情として、どういう風な居心地の良さなのかということと、5年後の市民が使っておられる時の感情としての相対がなんとなくわかる数字にはなると思います。大変ですが、票数稼ぐというのは一つの方法としてあるというのが1点目です。

それは大変だと思うので、国内外の論文をみていますと、定性的な空間の質の評価を極力量で表すやり方として、4つの指標を合わせて活力度のようなものを評価しているものがありました。4つの指標というのは、1つ目は利用者人数、これは今回ご提案いただいている滞在人数でもいいかと思いますが、これだと人数だけなので、2つ目に利用者属性の多様性、子供からお年寄りまで幅広く使われているのか、お年寄りだけが使っているのか属性の多様度を捉えるために、そこを使われている年齢区分で把握するということを目指しています。それから3つ目が、利用内容の多様度ということで、ただ座って携帯をみているだけなのか、遊んでいる人やお弁当を食べている人等、利用の多様度がどう評価できるかという視点です。最後に利用時間というのが入ってまして、どれぐらいの長さそこに居心地良く利用していただいているか

ということです。それぞれの指標を合算して、その空間の活力度を評価していこうということをやられていて、そういうことであれば比較的調査員が客観的に調査してわかる項目ばかりで、利用実態調査と合わせてできるような調査項目だと思うので採用してもいいのかなと思いました。単純に利用人数だけよりは少し利用の質の評価もできていると思います。少し複雑過ぎるという話もあるかもしれませんが、そのうちの指標をいくつか選んでいただいてもいいかもしれませんが、もう少し質の評価に踏み込んだことをお考えになられるのであれば、そのあたりは参考になると思います。

というのが質的評価の話です。あと2点ございまして、皆さんのご意見を伺いたいのですが、1つ目が指標の1つ目の居住誘導区域の人口密度の指標ですが、人口減少社会の中で、以前のように人口が拡大成長することばかりがいいことではないということを理解した上で、キープというのは弱気な気がします。居住誘導区域なので基本的には人口が増えたらいいと思います。池田市のトレンドを見せていただいても横ばい以上の若干微増ですので、多少の増を目指されてもいいのかなと思います。絶対こうした方がいいというわけではなくて、皆様のご意見をお伺いしてみたいなところでした。

それから具体的なアイデアはありませんが、4つ目のイベントの開催数というのも単純に1回が2回になればいいという話でもないだろうと思っています。これももう少しいい測り方がないかなと思っています。測りにくいですが、自律的に市民の皆様が発意してやられるようなイベントに育っていき、その回数が増えていたり、訪れる市民の方々が増えていたり、関係人口を巻き込みながら、盛り上がりを見せることがゴールではないかなと思っています。どのように測るかは難しいですが、1回が2回に増えただけでは5年後の姿としては寂しいので、ここももう少し工夫がないかなと思います。すいませんアイデアはありませんが、意見だけです。

委員長

ご意見ありがとうございました。まず一つ目は質的評価の考え方ということで、活力度という意味で4つの色々な利用者の人数、属性、使い方の多様性、利用時間というようなものを組み合わせながら調べるということもできるのではないかとのご意見いただきました。また、居住誘導区域の人口密度の数値について、もう少し増やしてもいいのではないかとのご意見や、イベントの実施回数についてはもう少し違う視点を入れて考えてみてもいいのではないかとのご意見だったかと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

他の委員の皆様ご意見いかがでしょうか。

委員

指標の利用時間について、滞在時間を3分で測られていますが、この3分というのはどうなのでしょう。単に携帯をかけている人もいると思うので、もう少し長くてもいいと思います。居心地が良ければ3分以上いると思います。

また、ポケットパークや色々な広場のレイアウトやデザイン等は公開コンペのようなもので案を募集する計画はないのでしょうか。

委員長

ありがとうございます。滞在時間は3分よりも長くとったらいいのではないかということと広場のデザインはコンペをお考えかどうかということですが、事務局の方はいかがでしょうか。

事務局

広場の再整備等の今後の方針や予定について、せせらぎモールは万博に向けて再整備を目指しているところです。来年度から設計にとりかかれたらと思っております。まず、北側と南側を含めた駅周辺の全体の構想を周辺の事業者を含めながら、検討を進めていこうと考えております。最終的に全体のデザインをコンペですることは難しいと思いますが、ある部分のデザインは学生の方に募集するといったことは想定できるのではないかと考えております。ポケットパークについても来年度、市民ワークショップをしながら活用について考えていこうと思っておりますので、その中でも提案を募集するようなかたちで進めていけたらと思っております。

滞在時間について、おっしゃられるように3分ぐらいでは短いということもありますが、単に通行されている方はカウントしないということで国の方が3分以上と示されていたということもあり、今はそれを使っております。カウントする際に何分以上おられたかという基データはありますので、根拠が難しいですが、例えば10分以上におられた人数にするとか、その辺りは検討できると思います。

委員長

ありがとうございます。指標のイベント実施回数について事務局どうでしょうか。

事務局

イベントに関する今後の指標の見直しの方針として、参加していただいている店舗等の数を増やしていくことはイベントを継続させていくだけでなく、発展させていくというところで指標としてあるのかなと考えております。そのあたりもご意見としていただけたらと思っております。

委員長

事務局の方から実施回数だけではなく、定量化の指標としてイベントへの参加団体の数も考えられるのではないかと考えていたのですが、これについて何かご意見ございませんか。

委員

今、参加団体の話がありましたが、参加された人数も一緒にみられたらいいと思います。客観的に誰がどう調べたらいいのかというところはあると思いますが、検討いただけたらと思います。

委員長

訪問者数のカウントができればいいのではないかというご提案をいただきました。他にはいかがでしょうか。

指標について、参加団体というのもあると思いますし、今店舗だけが掲載されていますが、例えば協力してくれる自治会等、住民サイドの方で協力いただいている方が広がっているということの数値的に出すというのもあると思いますので、可能であれば検討いただきたいと思います。

委員

指標については、皆様のご指摘されていたように少し定性的でもいいので、人数のような実数をカウントしていった評価指標にするというのは今後とても危ういと思っています。人口減少していく世の中で、母数は減るのに引っ張りあげるのは大変だと思います。私も他の地域で指標設定する際に、割合だと母数は減っていても分子が横ばいであれば増えているように見える等、上手に指標設定しなければ、おそらく何年かした後に歩行者の通行利用人数だと、そもそも住む人がいないのに増えるのかという話がでてくると思います。目標値は従前値より引っ張りあげる設定になるはずなので、それがとても矛盾していると思っています。上手に指標の設定を考えていった方がいいと思います。具体的には先生方のご指摘されたような内容をベースにご検討いただけたらいいと思っています。イベントもそうですが回数でやると実施することが目的化してしまっていて、この目標をクリアするために、なんでもいいからやってしまえということになる可能性もあるので、イベントを使うにしても指標の設定の仕方というのはよく考えた方がいいと思います。

もう1つが都市再生整備計画事業第2期中身について、コミュニティセンター跡の取り扱いは今後の公共事業の評価をしていかなければいけません。また箱物を作るのかと思いました。貴重な土地ですから、もう少し上手に考えて拙速に決める必要はないと思っています。例えば、色々な町をコンサルして池田に視察にきていただいたりしていますが、バスを止めるところがありません。今だと阪急の財団が持っている土地に止めていただいています。あそこも時間が結構限られていて、朝ゆっくりで夕方が早いので夜に回遊することはさせにくいバス停留所しかありません。例えば、観光バスを停車できるようなスペースをコミュニティセンター跡に設けると五月山や池田城や街中も含めて観光客を引っ張りやすくなる等、そういう上手な使い方をしていただければいいと思います。観光交流センターと書いていますが、そこまで行くのに電車使ってもらってもいいですが、柁で引っ張ってくることも必要だと思

ます。そのための場所が池田の街中は乏しいので、そういったことも考えながら2期の計画を組み立てていただいて、また次年度以降、具体的な計画や設計等を進められるでしょうから、考えていただいた方がいいと思います。箱物はどうかというのが率直な感想でした。

委員長

ご意見ありがとうございます。まず1点目は指標の取り扱いですね、実数カウントを使うことはよく考え、色々慎重に検討しながら進める必要があるということでした。2点目はコミュニティセンター跡地をどう活用していくかということで、例えばバスの駐車場が苦勞しているの、それも考えられないかというご意見をいただいたかと思ひます。

事務局

イベントの訪問者数については、今回はおさんぽマルシェということでいろいろなところでやっていたので、カウントすることがなかなか難しかったですが、一つの指標としましては、おさんぽマップを皆さんにお配りさせていただいており、その配布部数はわかっていますので、その数をもっとはけるようにしていくとか、どれだけイベントに来ていただいたかとか一つの指標にはなるのかなと思ひました。

事業者以外の団体の参加状況ですが、障がい者団体やボーイスカウトの団体やエリアプラットフォームのメンバー以外にもボランティアでスタッフとして参加していただいている方がおられましたので、そういった方々を増やしていくことも、ひとつあると思ひます。

コミュニティセンターの跡地活用については、おっしゃるように計画上入っていますが、市としては今後これで絶対いくという話ではないので、皆さんと話をしながら進めていけたらと思ひております。また、補助金の絡みもあり解体に補助金を使ってしまうと補助事業として、更地になったところに何かを整備しなければならないという課題はありますが、例えば更地にしたところで社会実験をする等して、本当にどうしていくべきかというのは、しっかりと考えていけたらと思ひます。

委員

箱物を作らずというあたりが、長く時間をかけて検討しながら、ゆっくりと暫定的活用というのも今の時代答えなのかなと意識しながら聞いていました。補助金もらったから形のあるもので残すと補助金の使用執行が明快になるから使いやすいところはありますが、そうでないことも答えなのかなと思ひました。

空き家率の話で、五月山の根本のところと駅の北側と南側とそれぞれのバージョンが違ふと思ひるので、それを鮮明にしないと同じものさしで切っていくと違ふ答えになるのが心配です。地区内人口という切り方もありますが、空間的には空き家、空き地率もあると思ひます。地域が縮小していくときに縮小の仕方がきっと五月山の根本で

はさっと減ってもあまり気にならないところが駅近くだと気になると思います。そのあたりのことを関連づけられたらいいと思いました。

委員長

ありがとうございます。場所によって空き家率の意味合いが違うのではないかとということで、駅前と山間の違いを指標化できないかというご意見をいただいたかと思えます。

質的なところかもしれませんが、整備していく中で沿道の利用状況が変わるところを測れないかなと思います。例えば人が使うような店舗数でいうと定量的にみられるかもしれませんが、人が日常使えるような店舗や建物の立地が変わっているかというようなところで、店舗だけではなく、テレワークを支援するスペース等も含めて、空間的にも豊かになっていっているということがみえたらいいと思っております。今は人が利用するデータは出ていますが、例えば建物の利用状況が5年後どう変化しているかをみるのも意味があるのではないかと思いますので、ご検討いただければと思います。

指標について、多数ご意見をいただいたかと思えます。質的な指標の色々な見方があるのではないかとということや指標のデータの見方も慎重に考えていく必要があるというご意見をいただきました。場所によるデータの読み取り方も考えながら評価してはどうかというご意見もあったと思います。

確認ですが、コミュニティセンター跡地の13ページの絵というのはあくまで今のところもし箱物として考えるならばこんな風なことが考えられますというような感じのものでしょうか。私はそのまま計画してもいいと捉えていたところもありますが、そのあたりの計画の角度のようなものはいかがでしょうか。

事務局

こちらの計画の素案につきましては、先ほどの池田駅の事後評価の中でも申しましたグリーンインフラ推進計画を立てていく中のたたき台として作らせていただいているもので、官民連携のエリアプラットフォームの意見等も踏まえながら絵にしたものになるので、これを基に市内でも今後、公共施設としてどうするべきかという検討も進めておりますが、そのあたりも踏まえながら来年度、市民や事業者や他部局の意見を入れながら進めていけたらと思っております。

委員長

ありがとうございます。施設の用途として、テレワーク拠点や子育て世代の活動支援や観光交流センターが池田市の中で不足しているということがあつたら、池田市全体でどこにそれを考えたらいいかという視点も入れながら検討いただくことも必要だと思えます。

先ほど質疑の方でもあつた社会実験的に更地にしたときに使えるような形で進め

るということも今の段階では十分考えられるという理解でよろしいでしょうか。

事務局

現在、都市再生整備計画の事業メニューとして社会実験はどんどん取り入れていきながら計画ありきというよりは色々試しながら進めていくことが一つの流れとなっ
てきています。

委員長

社会実験をしていくということで、市民の方々にこういう風に使い方ができるという
気づきに繋がったり、事業者側でも勉強になるところもあると思います。市民の
方々に知っていただける機会になる可能性も含めて検討いただけたらと思います。

他にはよろしいでしょうか。意見も出尽くしたようですので、議案第2号について
は以上とさせていただきます。

5. その他

委員長

それでは予定しておりました議案はすべて終了いたしました。その他事務局より報
告等がありましたらよろしくお願いします。

事務局

本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。フォローアップについ
ては、引き続き指標の計測を行い、事業の効果を確認していきたいと考えております。

また、阪急池田駅周辺地区の次期計画については、本日いただきましたご意見、ご
指摘を踏まえ、目標指標を再度検討し、修正した後、国へ提出していきたいと考えて
おります。

6. 閉会

委員長

ありがとうございました。

それでは、本日の委員会は終了することにします。委員の皆様におかれましては、
誠にありがとうございました。